

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000550
法人名	社会福祉法人朝日ぶなの木会
事業所名	グループホームかたくり荘
訪問調査日	平成 21 年 2 月 6 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月25日

【評価実施概要】

【評価実施機関】

事業所番号	673000550		
法人名	社会福祉法人朝日ぶなの木会		
事業所名	グループホームかたくり荘		
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市熊出字東村157-2 (電 話) 0235-53-3900		

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成21年2月6日	評価確定日	平成21年4月1日

【情報提供票より】(平成21年1月7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算	9.7人

(2)建物概要

建物形態	○併設／単独	新築／改築
建物構造	木造平屋 造り	
	階建ての 階 ～ 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,400 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円) ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食 250 円	昼食 350 円	
	夕食 300 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(1月 7日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低 73 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	真柄医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした居間では、利用者同士がゆったりとくつろぎながら会話を楽しんでいる、一人ひとりが生き生きと輝いています。
「畑での野菜作り」「山菜取り」「季節ごとの行事メニュー」など、四季折々の工夫を凝らしながら、「作る楽しみ」「収穫する楽しみ」「食べる楽しみ」を通して、「季節の移り変わり」と「生きがい」が感じられる支援を行っています。
利用者の混乱、転倒、つまずきなどの防止を図るための、一人ひとりの心身の状態にあわせたホーム内の安全対策の工夫、また、運営法人や併設施設の協力・連携による医療的支援や災害対策の取り組みなど、地域の方が安心でき、頼りにできる認知症ケアの専門機関としての期待が高まるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「ふれあい教室」という形で地域を回りながら、認知症理解のための寸劇を交えた啓蒙活動に取り組んでおり、「地域の一員として生活していけるよう支援します」という理念が新たに加えられている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) グループホーム会議や検討会で話し合いが行われ、評価の意義については理解されているが、自己評価は管理者、主任、副主任の3名で検討されており、全職員で取り組むまでには至らなかった。 自己評価は項目一つひとつを職員全員で点検していく過程も重要であり、また、評価は職員が全員で取り組むことで実施した際に最大の効果をもたらすことができるため、今回の取り組みを更に発展させて、次回は管理者と職員が協力しながら、職員全員で一連の過程に取り組んでみることを期待される。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎に開催される運営推進会議では、現況、活動内容、ヒヤリハット事例などが報告されている。また、職員への対応について、メンバーからも意見が出されるなど、活発な討議と運営面への反映がなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情相談委員の顔写真と連絡先を玄関に掲示する、家族から寄せられた苦情(「苦情ノート」に記載)を職員間で共有し、必要に応じて家族に返事を返していく、家族会で意見交換を行ってもらい運営に反映させるなどの、取り組みが行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 温泉に通う地元の人たちが敷地内を通る際に挨拶を交わす、ホームで開催される縁日に招待する、地域の敬老会に出席する、「ご詠歌」のボランティアを受け入れるなどの取り組みが行われている。また、各地域を回りながら認知症に関する啓蒙活動も毎月1回行い、地域の人々との交流により力を入れている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ふれあい教室」という形で地域を回りながら、認知症理解のための寸劇を交えた啓蒙活動に取り組んでおり、「地域の一員として生活していけるよう支援します」という理念が新たに加えられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務室に理念を掲示して確認したり、毎月の会議でも全職員で唱和して理念の共有に努めている。また、利用者のもっている力を発揮できる場面を提供することにより、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	温泉に通う地元の人たちが敷地内を通る際に挨拶を交わす、ホームで開催される縁日に招待する、地域の敬老会に出席する、「ご詠歌」のボランティアを受け入れるなどの取り組みが行われている。また、各地域を回りながら認知症に関する啓蒙活動も毎月1回行い、地域の人々との交流により力を入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホーム会議や検討会で話し合いが行われ、評価の意義については理解されているが、自己評価は管理者、主任、副主任の3名で検討されており、全職員で取り組むまでには至らなかった。	○	自己評価は項目一つひとつを職員全員で点検していく過程も重要であり、また、評価は職員が全員で取り組むことで実施した際に最大の効果をもたらすことができるため、今回の取り組みを更に発展させて、次回は管理者と職員が協力しながら、職員全員で一連の過程に取り組んでみてことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催される運営推進会議では、現況、活動内容、ヒヤリハット事例などが報告されている。また、職員への対応について、メンバーからも意見が出されるなど、活発な討議と運営面への反映がなされている。		

山形県 グループホームかたくり荘

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議が毎月開催されており、市の担当者、社会福祉協議会、包括支援センター職員らと情報交換を行いながら、地域の情報が共有できるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り、健康状態や暮らしぶりをまとめた月ごとの記録、金銭出納帳のコピーが家族に毎月送付されており、受診の状況や体調の変化については、電話でも報告されている。また、職員の異動については、ホーム便りの中に写真入で紹介されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談委員の顔写真と連絡先を玄関に掲示する、家族から寄せられた苦情(「苦情ノート」に記載)を職員間で共有し、必要に応じて家族に返事を返していく、家族会で意見交換を行ってもらい運営に反映させるなどの、取り組みが行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム利用者と他施設の職員(同一法人が運営)とは、「日常的な行き来」や「行事」の中ですでに顔馴染みになっており、職員の異動があっても、自然な形で利用者に受け入れられている。また、異動時には「お茶会」でも紹介され、利用者と異動職員の関係がスムーズに築けるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修とグループホーム協議会等が主催する外部研修に参加しており、受講内容は報告や回覧の形で、全職員に伝えられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会や鶴岡市グループホーム部会の研修会で学んだこと(スプリンクラーの設置、水分摂取など)も活かしながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	山菜の料理の仕方、昔から伝わる季節行事や風習などを利用者から教えてもらい、当時の出来事を振り返ったり、懐かし時代を思い出したりしながら、利用者と職員が共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の言葉、表情、仕草、様子などから、一人ひとりの思いや意向を把握するようにしており、また、困難な場合には、家族の協力も得ながら検討するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時の家族の言葉、また、日々の利用者の言動なども参考にしながら、毎月行われる会議で話し合いを行って、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の評価と3ヶ月ごとの見直しが行なわれている。また、状態に変化が生じた際には、医師、家族、職員で話し合い、利用者の現状に即した介護計画が作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	入所前のかかりつけ医に引き続き受診することができ、 受診支援をホームで行なっているため、かかりつけ医と の信頼関係も築かれている。また、協力医とも、往診や インフルエンザ対策の指導を通じた連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	併設施設の看護師がホームに毎日来ており、職員と情 報交換を行いながら早め、早めの対応ができています。ま た、状態に変化が生じた場合には、かかりつけ医や家 族とも連絡を取りながら、職員全員で情報を共有して対 応するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	職員の言葉遣いや対応について、気づいたことは管理 者、主任、副主任がその都度話しをするようにしてい る。また、個人記録は利用者の目に触れないよう配慮し て記載し、事務所で保管するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間に幅を持たせる、外出やドライブに出かけ る、家族の協力も得て自宅に出かけてみるなど、その 人らしい暮らしが支援されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立内容に反映させたり、収穫した山菜の調理方法を聞いたりしながら、利用者と職員と一緒に楽しんで調理をしている。また、おしぼり配り、後片付けなど、利用者一人ひとりのできる力に応じた役割を持ってもらうようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望によっていつでも入浴できるようになっており、また、入浴を好まない方には、早い時間帯での入浴や温泉浴など、気分を変えて入浴できる方法も勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	山菜取り、わらじ作り、ちぎり絵、塗り絵など、利用者が得意なことや興味のあることを取り入れて、過去に培ってきた力を発揮してもらえるようにしている。また、地域ボランティアによる「ご詠歌」を楽しむ機会も設けられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	菜園に出かけて出来具合を見てくる、広い敷地内を散歩する、天気の良い日にドライブに出かけるなど、日常的に外出が支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関にセンサーを設置して、人の出入りがあった時には職員がすぐに対応できるようにしている。また、外に出たい方がいた時には、職員も一緒に付き添って外に出るようにして、鍵をかけないで安全に過ごせるよう支援されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害発生を想定し、法人全体の防災訓練とホームでの誘導訓練が実施されている。また、近隣の協力員や消防署の協力を得ながら避難誘導訓練も行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々に合わせた形態での食事の提供、食事の進まない場合の栄養補助食品の準備がなされている。また、一人ひとりの食事と水分の摂取量把握、毎月の体重測定、法人栄養士からのアドバイスも行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳、ソファ、椅子があり、利用者が思い思いに寛げる共用スペースとなっており、壁には利用者と職員で作成したちぎり絵の紙芝居が飾られている。また、トイレや浴室には手すりや滑り止めマットもあり、安全性への配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた小物入れ、衣装ケース、仏壇、写真、手作り作品、好みの寝具等が持ち込まれた居室となっている。また、利用者の混乱、転倒、つまずき等を防止するための安全対策も個別に講じられている。		